

災害保健医療コーディネーション実習を実施しました (2021/7/11)

テーマ：災害時の保健医療コーディネーション、本部運営、新型コロナウイルス感染症対策

場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

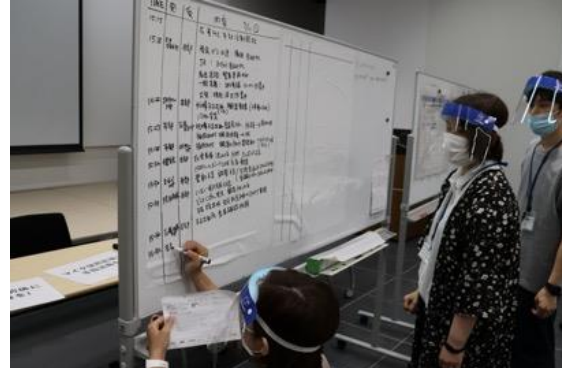
2021 年 7 月 11 日（日）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所において、文部科学省補助金事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害保健医療コーディネーション実習を実施しました。プログラム履修生他 22 名（医療従事者、行政・消防職員など）が研修を受講しました。実習コーディネーターを務める稲葉洋平助教（災害医学研究部門 災害放射線医学分野）と佐々木宏之客員研究員（同災害医療国際協力学分野）が、会場責任者として研修運営にあたりました。

本年 7 月上旬に静岡県熱海市で発生した土砂災害のように、コロナ禍においても災害は発生し、災害保健医療チームは被災地に派遣され活動します。各地から集まる災害保健医療チームを有機的に運用するためには、情報収集・共有、資源配分などの本部コーディネーション（調整）機能が不可欠になります。この実習では、東日本大震災時に石巻医療圏の被災地医療調整を支援し続けた NPO 法人、災害医療 ACT 研究所の医療従事者が講師となり、当時の実例を題材に本部での情報収集・共有のあり方、本部組織運営について実践的な研修を行いました。研修の最後には 2 時間半にわたる模擬本部運営研修があり、受講者は感染対策を行いながら本番さながらのシナリオに基づいて本部運営を行いました。

昨年度に引き続いて、新型コロナウイルス感染症蔓延を鑑み、受講定員を大幅に削減して研修を実施しました。受講生の間隔を広くとる、換気の励行、手指消毒、マスク・フェイスシールド着用、大声を発しない会話など、感染対策に万全の注意を払いつつ研修を実施しました。



研修スペースを広く使って



本部に入ってくる情報を逐一
クロノロジー（経時活動記録）に残す



地図、避難所情報、医療資源を
勘案し巡回医療チームを配分



災害時に集まってくる多数の
情報処理、伝達に四苦八苦

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）